

## STAGE+を楽しむ(114)(HP 収載)

### —マーラー交響曲第4番—

#### 1. 始めに

前報(113)に引き続き、STAGE+のグスタフ・マーラーの交響曲第4番の演奏の試聴を実施します。

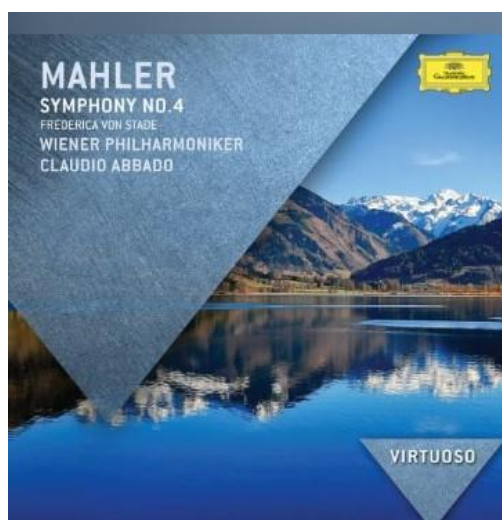
#### 2. 試聴音源

今回は、グスタフ・マーラーの交響曲第4番の演奏を選びました。

フレデリカ・フォン・シュターデ

クラウディオ・アバド指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

グスタフ・マーラー 交響曲第4番ト長調



なお、Universal Music の MQA-CD UCCG-40082 でも同一の収録曲がありますので、比較試聴してみます。

#### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

STAGE+のマーラーの交響曲第4番は、1楽章から3楽章までは、軽快であったり、煌びやかであったり、静かに流れるような表情であったりと、表情を変えなが

ら展開していきます。4 楽章になるとシュターデの歌唱が加わり、柔らかな声でほっとさせられる印象です。

MQA-CD でも演奏の印象は同様ですが、音質面では次のような違いがあります。STAGE+では、全般にスタティックで、細かい表情が再現されていますが、MQA-CD では、おおおらかで押出がよく、環境音も含めて響きがよくなります。

#### 4. まとめ

スピーカーアキュライザーの効果により STAGE+の配信と MQA-CD とともにグレードがあがっていますが、LAN アキュライザーと Crstal EpL の効果により、STAGE+の配信は MQA-CD にない、緻密で細かい表情が再現される良さもあります。

以上